

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

工夫～泥団子～／安城市立東端保育園（愛知県）

泥団子遊びは、多くの園の子どもたちが興味をもつ遊びの一つです。「固くしたい」「ピカピカにしたい」などと、思いをもって長期に亘って取り組む子どももいるのではないのでしょうか？

今回は、泥団子に「色を付けたい」との思いをもった子どもたちが、工夫して泥団子を作る姿に焦点を当てています。保育者が「科学する心」につながる視点をもって、子どもの姿を見つめ、子どもの思いを見取って援助していることが読み取れます。



● 色付きの泥団子が作りたい／5歳児

✦ 園舎内に「泥団子研究所」を作る

6月、子どもたちは、園庭で泥団子作りを楽しんでいたが、梅雨の期間が長く、外に出ることができない日が続いた。そこで保育者は、子どもたちと相談しながら屋根のあるベランダに泥団子作りのコーナーを作ることにした。砂を入れるためのプール、タライやフルイ、スコップなどをベランダに用意し、子どもたちと一緒に砂を運び、全員で力を合わせて作り上げ、「泥団子研究所」と名付けた。



✦ 宝石みたいな泥団子を作りたい

子どもたちは、雨の日も引き続き泥団子作りを楽しみ、光る泥団子ができつつあった。そのような中、色付きの泥団子を本で見つけた子どもが、「宝石みたい」と興味をもった。本で見つけた色付きの泥団子は宝石みたいだった。「どうやったら泥団子に色を付けられるんだろう？」と、5歳児は研究を始め、まずは色粉作りを行った。絵本を参考にチューブの絵の具を取り出し乾かしたが、柔らかくて固まらず色粉にならなかった。絵本を参考に試してきた子どもの姿を踏まえた保育者は、新たな道具（モノ）を用意して、子どもたちが試行錯誤できるように考えた（チューブの絵の具、固形絵の具、すり鉢、洗面器などを用意した）。

子どもの思い



あっ！これ知ってる。
やってみよう！

子どもの姿

Aさん：「色の粉どうやって作ろうか？」
Bさん：「固いやつが欲しいな」

保育者：「（固形絵の具を見せて）こういう絵の具があるけどどう？」
Aさん：「それやりたい！」
Cさん：「どうやって粉作る？」
保育者：「（すり鉢を用意して）実はこんなものもあるよ」
Aさん・Bさん：「それやりたい！」

保育者の思いと援助

どんな風にするのか知っているのかな？

子どもの思い

絵本に載っていたのと一緒に
なってきた。



やった!

どんどん取れちゃう。なん
でだろう?。

僕のは周りにたくさん色の
砂が付いていて、Fさんと
Dちゃんのは付いてないの
に色が付いている。

分かった!
光った泥団子は周りに砂が
付いてないぞ。

僕も色付きの泥団子作るん
だ!



子どもの姿

保育者：「何色がいいかな?」
(子どもたちは、12色の中から選ぶとする)
Aさん：「緑にする」
Bさん：「赤がいい!」

(子どもたちは、赤と緑の固形絵の具をすり鉢で擦る)
Aさん：「あ! 細かくなってきた」
Bさん：「粉になったよ」
Cさん：「色の粉をさら粉に混ぜるって本に書いてあったよ」
(子どもたちは、洗面器にさら粉と色の粉も入れて混ぜ、光った泥団子に
かけて磨く)
保育者：「あ! きれいな赤色が付いたね」
Cさん：「すごい! 光ってるね」
Dさん：「見せて、ワァ! 赤くなってる」

Bさん：「僕も早く色の粉付けたい!」
(Bさんが、まだ光らせる前の段階の泥団子に色の粉入りのさら粉をかけ始
める)
Bさん：「緑になった!」

(しばらくさら粉をかけ、磨き始めるが色の粉の部分が削れて落ちてしま
う)
Bさん：「色の粉がいっぱい取れてきちゃう」
保育者：「あれ? さっきはきれいな緑が付いていたのにね」
Bさん：「手に緑がいっぱい付いて、団子が緑にならないよ」(F
さんとDさんのようにならなくて不満そう)

保育者：「FくんとDちゃんたちってどうやって作っていたっけ?」
(Bさんと一緒にFさんとDさんの持っている色付き泥団子を見に行く)
Bさん：「ツルツルで周りに砂が付いてない」

保育者：「周りに砂が付いてないのはなんでだろう?」
Bさん：「光ってから色の粉付けないとできん」

(まずは光る泥団子を作ることを始めたBさん)
保育者：「頑張って作っているね。色の粉付けるの楽しみだね」
Bさん：「うん」

(FさんとDさんは色付きの泥団子ができたことが嬉しくて手に持って保育
室や泥団子研究所にいる友達や保育者に見せて回る)
保育者B：「Fくんすごいね! Tくんすごいね!」
(子どもたちは、大事そうに手で何度も擦っては色付きの泥団子を見てい
る)

保育者の思いと 援助

道具を見て、使
い方が分かって
いたのだな。
(自分たちで
やってみよう
とする姿を認め、
使い方を知らせ
るのではなく、
どんな風にする
のか見守る。)

子どもの疑問を
大事に捉え、言
語化して共有す
る。

F児とD児の姿
から気づきま
す。かけになる
といいな。

子どもの疑問を
解決するために
問いを整理す
る。

B児が頑張って
作ろうとする姿
を認めたい



- まだまだ鈍い光りではあるものの、色付きの泥団子を作ることができたことが他の子どもたちへの刺激となり、自分なりに作り方を考えたり、友達同士で教え合ったりして作ろうとする姿が増えてきた。
- 絵本で見ていた色付きの泥団子と全く同じではないが、自分が作ることができたという経験は、子どもたちの大きな自信につながった。
- 子どもたちの疑問に保育者がすぐ答えてしまうのではなく、言葉にしたり疑問を整理したりすることで答えを子どもなりに考えたり、新たな気づきが生まれたりした。また、「自分で気づいた」という気持ちは、次への意欲につながった。色の粉の作り方や色を付けるための方法については、今後も繰り返し作る中で試行錯誤する体験を大事にしたい。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <https://www.sony-ef.or.jp/preschool/>」